

練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第2回）「表現力の育成」部会 要点録

開催日時	平成21年6月23日(火) 午後3時40分～午後5時10分	
会場	練馬区役所本庁舎11階 1101会議室	
出席者	委員	村松賢一、荻部一夫、片柳博文、山口義一、加藤芳和、武井和幸、井上康子、武者裕子、三浦秀樹、根本喜代江（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	谷川拓也 指導主事

1. 「表現力」についての共通理解

部長

本日の会議のテーマとしては、前回議論された「表現力」ということばの共通理解をしたい。最終的に本部会が作る資料のイメージをみんなで考えていければと思う。

（指導主事より配布資料の説明）

委員

前回、「表現力」を「コミュニケーション能力」だけとしてとらえるのではなく、歌や踊り、身体表現も含めてとのことだった。配布された資料ではコミュニケーションに主眼が置かれているように感じる。これは一例ということで各教科で扱う表現力も全部まとめた「表現力」を定義するというとらえ方でよいか？

アドバイザー

それはこれから議論することではないか。今の考え方は私も賛成だが、この場で議論すべきことと思う。

委員

「表現力」のなかにはことばで表現する以外に音楽や美術も含まれると考える。音楽、美術だけでは表現として不十分かもしれないが、ことばやコミュニケーションでより深めることができる。

委員

各教科のなかで表現力をつけていくことを柱にするのがよいと思う。授業のなかで表現しない時間というのはない。

委員

区の基本方針のなかでは各教科以外の学習活動におけるカリキュラムの作成となっているが、他の資料では「ことばや歌、絵、身体などを用いて表現したり～」と音楽や図工を意識して書

かれているものもあり、どちらなのか判断がつかない。

部長

この委員会は教科学習のなかに触れる必要がないのか？触れてもかまわないのか？

事務局

教科とのかかわりがあってもかまわないと考えている。

部長

教科学習に触れざるを得ないような場面では触れるが、そこを中心にやるのではなく道徳・特別活動・総合的な学習の時間の三領域を中心的に提案していくというとらえ方をお願いしたい。

2 「表現力」について

部長

「表現力」をどのようにとらえるか具体的に議論する必要がある。表現力の育成の大切さは皆さん理解していると思う。小中一貫教育校で子どもたちにどう力をつけていくのが望ましいのか、表現力という切り口でまず小学校の先生から意見をお願いしたい。

委員

「コンピュータを活用したプレゼンテーション」ならば小学校ではここまでというように9年間をうまく使えるといい。発達段階をうまく捉えた表現力を出していけると交流での学び合いにもつながる。

委員

書かせると立派な考えをもっているが、それを言葉で表せない子どもが多い。小学校では低学年には自分の考えを発言することで自己肯定感を育て、中学年ではディスカッションの経験をたくさんもってもらおう。高学年になったら自分の考えをストレートに表現できる、そんな力をどう付けていけるか考えている。こういう子になってほしいというところに向けて9年間組み立てていき、こういう子になったよというのが小中一貫校の理想の姿だと思う。

委員

1年生から教育を積み上げるので、だんだん向上・成長してほしいと思うがやはり高学年になると、自分から発表しない、声小さいなど表現することに対する意欲が弱くなっている。こんな現状を何とかしたいと思う。

部長

授業では1対1の発問に対しては答えられても子ども同士で意見を絡めることはできない。自分を前に出すような態度や技能が身につけていないと思う。

外国語活動の時間ではALTの先生がジェスチャーで体を全部つかって表現するなかで緊張がほぐれ子どもたちも声が出てくるようになる。そのように繰り返し指導する場面を与えてやれば、子どもたちにも自然に全身を使って表現する技能や態度が身についてくるのではと思う。次に中学校の先生のご意見をお願いしたい。

委員

私は、進学せず社会に出る生徒が自分の個性を生き生きと表現できる力が「生きる力」の1つだと考えている。そのために身につけさせることが必要な表現力とは自らの考えや意見を分かりやすく伝える力。将来、社会に出たときのリハーサルとして表現力を捉えている。

委員

本校の生徒たちも驚くほど声の出ない子がほとんどである。挨拶や会話も「先生、プリント」のような単語の羅列になる。批評文を書かせると「こんなことを感じていたのね」と感心させられるものもあるが、いざ発表となると「しーん」となってしまう。今はこういったものを少しずつ変えていこうと探っている。

委員

自分の考えを伝える表現力のほかに、相手から引き出す、聞き出すというのも相互コミュニケーションでは大切。相手のいったことを聞き、相手に一度戻すことで相手はまた考え、新しいことばで表現する。こちらもさらに理解が深まり話すことができる。そういう意味で引き出す技能も必要と考える。

委員

「表現力」とは日本語力ではないかと考えているが、ここで検討していく「表現力」は音、絵、色、形など日本語力ではない部分も多い。そもそも発達段階を考慮しても、子どもに何か伝えたいという気持ちが起こらなければ表現力も何もなく、どうしたらそういう気持ちが持てるかというところから始めなければならない。

「表現力」はそれぞれの特性に応じるものと捉えると、スキルについて検討することが必要なのではないかと考える。

委員

「表現力」を一言で表すと「伝える力」と捉えている。ことばだけではなく表情・トーンなどいろいろある。発達段階によるスキルのことも入ってくるとは思うが、年齢に応じた伝え方というものを考えたい。

部長

時間が足りなく議論は固まっていないが、一応の区切りとして表現力の育成について今後どういう方向・切り口で進めるべきか村松先生にご示唆いただきたい。

アドバイザー

皆さんの話を伺い、私と共通する部分もたくさんあって、心強く感じる。ハードルが高くともいいプログラムをつくるために一緒に力を尽くしたい。

年齢によって言いたくない、黙っていたいという気持ちがあっても、表現というのは人間の本然的な願望だと思う。ことばでなくても感情や思いを何らかの形で表現するしかないのが人間だと考える。どんな寡黙な後ろ向きに見える子どもでも、何かを表現したいと思っているに違いない。

表現の役割の1つとして、表現することによる気づきがあると思う。自分の考えや感情を何らかの形で外に出すことやその過程で「自分はこう考えていたんだ」「もやもやしていたのはこういう事だったのか」と初めて気づくことがある。子どもにとって表現することは、自分を知ったり形成していくことと重なっている大事なものと考えている。

私の願いは練馬の子どもたちに9年間を通し、ことばだけではなく書きことばや音楽、美術、体を使った表現など得意分野に応じて多様な表現の機会を保障すること。表現を通し自分や自分らしさを見つける、自信をもつ、可能性に気づくようなプログラムになってほしいと思う。

もう1つ表現を考える場合に一方通行にならないことにこだわりたい。表現をして自分のなかにあるものを他の人に見せた場合、リアクションがあつて初めてつながりが出てくる。表現を受け止める側の力、引き出す力も併せて表現が孤立した自己完結的な営みにならないようにする。表現を通してクラスの仲間が分かり合えるようになるなど、人間性・人間関係づくりに役立てることを忘れないでいきたい。

3. その他

部長

本日配布された町田市資料を見ると、9年間を見通した割り当て時間数、おおよそのプログラム、期毎の発達段階に応じた規範教育、具体的な指導案などが4つの領域ごとにあるが、このようなものをイメージしてつくるといふことでよいか？

事務局

あくまでも例だ。

部長

4つの部会があるから、今後共通プロットのようなもののすり合わせを行い、2年後に資料を完成させるということよいか？

事務局

その通りだ。

部長

イメージの共通理解ということでは今日はここまでとするが、本日の資料を見ていただき、こんなページも必要というようなことがあれば考えをまとめ、次回に臨んでもらいたい。

(次回日程の確認)

7月9日(木) 13:30より 練馬区役所 11F 1101会議室

事務局

「表現力」について一応共通理解をしたということで、今回は「表現力」の中身の検討をしたい。

部長

この場に集まって考えるというのは難しい。「表現力」を提案するときの切り口や視点が予めあって、具体性をもたせないと部会の提案が分散し、まとめきれないのでは？

アドバイザー

小学校から中学校へどんな流れで育てていくか、大まかな中身の柱立てをそれぞれが考え事前に提出するのはどうか。また、ことばの力が中心になるにしても音楽、美術、体の表現などをどうことばの教育に関連付けていくか、専門の方もいるのでやりたい。

委員

どういう授業だとか発達段階でこういうものを身につけさせたいということか？

アドバイザー

そのとおり。低学年(I期)の発達段階では表現力といっても“こういう力”というのがあると思う。そのためにことばの面でどう迫れるか、音楽、図工、体育ではどう関われるか。同じように中学年(II期)、高学年(III期)でも“こういう表現力”というものがあり、9年間を見通した表現力の段階付けが先だと思う。

部長

それでは第I期から第III期の発達段階に応じた「表現力」をどういうふうに考えるか、次回までをお願いしたい。

アドバイザー

特に大事なものは第III期の目標、到達点のイメージだと思う。到達点を目指して第II期では何ができるか、第I期では何ができるかとした方が考えやすい。第III期で目標とすることを話し合いたい。

委員

学習指導要領との関係を前提にするとすると、教科との絡みをどう考えればよいか。そこも含めて考えを持ち寄るのか？

アドバイザー

教科の絡みまではいかないと思う。中学3年で卒業するときどんなことができる、どうい

う中学3年を目指すという部分をまずはっきりさせることが大事だ。ことばの面ではイメージできるが、そのときの身体表現、音楽、美術の面などを皆さんから聞かせてもらいたい。

委員

それぞれが専門とする領域、教科で育てたい究極の表現力に係る生徒像みたいなものを考えてくるということではいいか？

委員

総合的な学習や道徳は誰からも出てこないのではないか。

アドバイザー

それぞれの専門性を踏まえながら、道徳、総合なども念頭に置いてご提案いただきたい。

事務局

予定時間が過ぎたので、今日はここまでとさせていただきます。